

# 名橋たちの音を聴く

2015/05/02 キャスト・プロフィール

## 福島康晴 (テノール)



東京音楽大学大学院作曲科修了。大学院修了後バロック音楽に傾倒し、声楽を牧野正人氏に師事する。2006年にイタリア留学を決意し、声楽をA・ジャンネゼ、V・マンノ、B・M・カゾーニの各氏に師事する。またイタリア・ミラノ市立音楽院において「ルネッサンスのポリフォニー」をD・フラテッリ氏の下で学ぶ。またミラノ大聖堂の楽長であったM・グランチーニ(1605-69)の論文とコンサートにより満点・褒賞付きで修了。その後、自らアンサンブル・グランチーニを結成し、イタリア公共放送ラジオ「Rai 3」にて生演奏を行う。これまでにイタリアで多くのバロックアンサンブルと共演する他、バロックオペラの出演も多い。2012年12月に完全帰国し日本での活動を再開する。2014年にはA.L.Mレコーズより発売された『A.S. テッファニー：2声のための室内カンタータ集』に参加。またイタリア・バロック音楽を専門に演奏するプロフェッショナルな団体、エクス・ノーヴォ室内合唱団を設立し、指揮活動も精力的に行っている。

## 辻康介 (声楽家)



1600年頃のイタリア音楽を中心に 様々なジャンルの音楽を歌い、イタリア語歌を独自訳の日本語でも歌う。主宰する三つのユニット「ビスメロVisMelodica」「ネーモ・コンチェルタートnemo concertato」「南蛮ムジカ」での活動を中心に、「ジョングルール・ボン・ミュージシャン」などで歌う。「辻康介の体感音楽史：中世の移動」講座には数多くの受講生が集まっている。声楽を牧野正人、クラウディオ・カヴィーナらに師事。国際ロータリー財団奨学金でイタリアに留学、声楽の他にも古楽の理論的基礎を学んだ。国立音楽大学楽理科卒。

## 阿部大輔 (バス/バリトン/尺八奏者音)



尺八を真玉和司に、声楽を成田博之に師事。尺八では古典本曲(虚無僧の吹いていた曲)や現代音楽を主に、声楽ではドイツ、イタリアのバロック期の宗教音楽を中心に演奏している。むつのを、オーラ、ヨハン・セバスチャン・カンマコーア・ヨコハマ、Vocal Consort Tokyo、EX NOVO他、声楽アンサンブル等で活動。横浜国立大学教育人間科学部地球環境課程卒業。NHK邦楽技能者育成会第51期卒業。

## 鳥越けい子 (青山学院大学教授/芸術文化学博士)



日本各地の音文化の調査研究をおこない、「サウンドスケープ(音の風景)」から「形あるもの・見えるモノを超えた環境」をテーマに、生活文化の継承や伝統文化の新たな活用を視座に入れたまちづくり、環境をめぐるデザインから保全に至る各種のプロジェクト、都市をフィールドにしたワークショップを展開している。専門は、音の環境文化学、環境美学、音・音楽とまちづくり。聖心女子大学教授を経て、現在、青山学院大学総合文化政策学部教授。

## 鷺野宏 (都市楽師プロジェクト主宰)



アートディレクター/デザイナー。芝浦工業大学環境システム学科(曾根幸一・環境設計研究室)卒。代議士秘書を経て、2007年鷺野宏デザイン事務所を設立。グラフィックデザインやアートプロジェクトを中心に活動。主宰する「都市楽師プロジェクト」では、音・音楽をきっかけとし建築や都市空間のもつ「その場らしさ」を共有していくためのプログラムを日本橋をはじめ、東京各地で企画・展開している。

※ 視覚と聴覚で、橋と音を味わうために舟には屋根がありません。

新常盤橋

常盤橋

常盤橋

一石橋

今回の運行は、日本橋上流域から、江戸橋下流域です。

西河岸橋

日本橋

START  
日本橋船着場

江戸橋

鑑橋

日本が体験してきたそれぞれの時代の価値観がビジュアルに積層した景観をもつ日本橋川。

この運河をめぐる「船上の音遊び」の乗船者たちは、船という普段とは異なる視点と音・音楽の刺激を通じて、

歴史ある日本橋という都市を、より繊細に、より鮮やかに体感することになるでしょう。

ぜひ、非日常の「船上の音遊び」をご体験ください。

詳細・お申込は Web で

<http://toshigakushi.com>

お問合せ先/ウェブ以外のお申込先 ▶ 都市楽師プロジェクト ✉ [info@toshigakushi.com](mailto:info@toshigakushi.com) ▶ 鷺野宏デザイン事務所 ☎ 050-3736-1404 FAX 050-3737-1045  
ウェブ以外のお申込は、メール、お電話で承ります。お申込の際は、次の情報をお伝え下さい。① ご乗船日時 ② お席数 ③ お名前 ④ 郵便番号とご住所 ⑤ お電話番号